

**第52期・2011年度
事業計画および収支予算**

(2011年4月1日～2012年3月31日)

社団法人 出版文化国際交流会

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-2-1

Tel. 03-3291-5685 Fax. 03-3233-3645

<http://www.pace.or.jp>

2011年度事業計画

はじめに

昨年6月開催の通常総会にて監事代表より本会の財政事情の問題点について指摘を受け、正副会長を中心とする主導のもと、問題点の洗い出しと同時に可能な限りの対策を講じました。それは、熱意ある先達者によって58年前に設立され、名誉会長三笠宮崇仁親王殿下、歴代の会長を始めとした会員社、そして外務省、国際交流基金、関係諸団体、その他多くの方のご理解・ご協力を得て日本の出版文化の海外普及に努めるこの組織の財政を、もう一度健全化させるという共通認識のもとに行われました。

具体的には、支出面として国際図書展参加事業における専門家派遣の辞退、フランクフルト・ブックフェアにおける共同ブーススペースの半減、各イベントの中止等、事業費の削減、また事務所賃貸料、人件費等の管理費においても可能な限りの節減策を実施しました。収入面としては、従来は年4回に分けてお願いしていた会費のご請求を第2期～4期分を一括でお願いすることとし、ほとんどの会員社からご協力をいただきました。

なお予断を許さない厳しい状況は変わりませんが、お蔭さまで健全化への道筋が見えてくる決算予測となりつつあります。ご協力いただきました皆さまがたに改めて厚く御礼を申し上げます。

このような状況下、2011年度事業計画としては以下の方針で臨みたいと存じます。

まず新公益法人制度改革への対応として、2010年12月開催の理事会、評議員会でご承認いただきました一般社団法人への移行認可を目指し、本年度秋に申請するべく準備を進めたいと存じます。

外務省、国際交流基金及び本会との協議により発足した「国際ブックフェア参加プロジェクト」は本年度で25年目を迎える本会の中核事業ですが、2011年度に国際交流基金と共催参加する国際ブックフェアはフランクフルト、ソウルを含め14件を予定しております。専門家派遣につきまちは可能な範囲で実施することとし、会場での応接や現地出版事情の調査、情報収集を行いたいと存じます。

第63回フランクフルト・ブックフェア、第17回ソウル国際ブックフェアでは、単独出展社のお世話をしつつ、日本会場を構成し出版文化の交流促進を図る中心的役割を担います。

海外出版事情視察団の編成としては、10月のフランクフルト・ブックフェアを中心にヨーロッパ出版事情視察コース、およびビジネスコースの企画を実施したいと存じます。

広報活動では、*Practical Guide to Publishing in Japan 2011*、『フランクフルト・ブックフェア』(手引き)を発行いたします。またホームページでの広報も充実を図っていきたいと存じます。

フランクフルト・ブックフェアへの日本の参加のあり方について検討していただく『フランクフルト・ブックフェア世話人会』の運営では、ブックフェア事務局との連携を密にし、一層の情報収集に努め、同フェアへの出展環境の整備、ひいては出展社の増加に繋げていきたいと存じます。

1993年より導入の納本制度によって生み出される特別賦課会費は本会の財政上、その役割が誠に大きく本年度も引き続き多くの会員社のご理解・ご支援をぜひともお願い申し上げます。

創立58年目を迎える本年度は、事務局体制の再構築を図り、会員各位、関係諸団体、外務省、国際交流基金、その他多くの方々のご支援のもと、日本出版界の国内外における更なる発展に微力をささげる所存でございます。

今後とも変わらぬご支援ご協力をこころよりお願い申し上げます。

2011年3月28日

社団法人 出版文化国際交流会
会長 江草 忠敬

I. 「事業委員会、財政・公益法人制度改革対策委員会」の運営

新公益法人制度改革への対応として、2010年12月17日（金）開催の理事会、評議員会で一般社団法人への移行方針について承認をいただきました。これを受けまして今年度は移行認可の申請を行うこととします。

II. 広報活動

1. 『Practical Guide to Publishing in Japan 2011』の発行

英文版・日本出版界の実用ガイド

A5判変型、本文61頁、発行：5,000部

独立行政法人国際交流基金との共同出版

(掲載内容)

日本出版界の概要と輸出入統計、東京国際ブックフェアの実情、前年度のベストセラー図書の紹介等を含む最近の動向、翻訳出版権・図書の売り込みや購入等の商取引につながる基本情報、翻訳出版助成機関の紹介、主要な関連機関、団体の住所一覧等、外国の出版関係者に有用な情報を英文でコンパクトに紹介する冊子。

本会が参加する各国の国際ブックフェアで配布する(各200～500部)。在外公館、国際交流基金海外事務所での現地配布資料、来日外国出版人への啓蒙資料としても活用される。

2. 『フランクフルト・ブックフェア』(手引書)

B5判、発行：100部

(掲載内容)

世界最大のブックフェアを、その歴史から最新の開催状況までコンパクトにまとめた小冊子。簡易製本の形にして、さらに活用しやすくした。会員社、視察団参加者に配布する。

3. ホームページによる広報

ホームページ上で本会の活動を紹介。会員社ホームページへのリンク等の基本情報とともに、国際ブックフェア開催日一覧や派遣専門家の最新報告、さらに海外出版事情視察旅行企画の案内等を行う。内容充実を図る一環として、国際ブックフェアの来場者、あるいは日本文化に関心を寄せる一般市民への便宜を図るため、On-Line書店、英文版元へのリンク機能を加えていく。

III. 国際ブックフェアへの参加

1. 出展参加

(1) 国際交流基金との共催事業により参加する国際ブックフェア

本年度は14件の国際ブックフェアに参加予定、その名称および会期については、後述の一覧表をご参照ください。

(2) 東京国際ブックフェア2011

在京大使館の協力を得て過去3年にわたりリトアニア、キューバ、アルゼンチンと各国出版文化の紹介を本会のブースで行ってきたが、本年度は本会会員社の紹介を中心に行う。

(3) ソウル国際ブックフェア2011

昨年度は日本による韓国併合から100年目に当り、日韓関係史関連図書を意識した展示を行ったが、今年度も日韓関係の図書をまじえた展示を行う。来場者への図書販売については韓国の大型書店「教保文庫」の協力をいただく予定。国際交流基金と本会の共催ブース以外に単独出展の文藝春秋、ポプラ社、トーハン、日本聖書協会のお世話をし、日本通りを形成する。

- (4) 第63回フランクフルト・ブックフェア（一部国際交流基金との共催事業）
- 1) 昨年と同様6号館1階(Hall 6.0)に本会共同ブースと各社単独ブースによる日本会場を構成する。
 - 2) 本会共同ブースには、国際交流基金と共同で総合的な「日本インフォメーション・センター」(16㎡)と(社)自然科学書協会、(社)出版粋会、大学出版部協会、日本児童図書出版協会の協力参加による共同展示コーナー(16㎡)を設置する。
 - 3) 3号館コミック・センターへの日本の出版社の出展についてもお世話をする。
 - 4) 日本会場における書籍の展示・紹介にとどまらず、日本の出版文化をより立体的に紹介する。

- (5) ライプチヒ国際ブックデザイン展
「第45回・造本装幀コンクール」の受賞作品を、(社)日本書籍出版協会と共同出展する。

2. 国際ブックフェア関連事業

- (1) 「フランクフルト・ブックフェア世話人会」の運営
同ブックフェアへの日本の参加のあり方についての研究会
- (2) 海外の出版事情視察団の編成
 - 1) 「フランクフルト・ブックフェアとイタリア出版事情視察コース」
 - 2) 「フランクフルト・ブックフェア ビジネスコース」
 - 3) その他

IV. 関連活動

1. 納本制度の継続実施
ご協力いただいていない会員さんにはご協力依頼を改めてお願いし、既にご協力いただいている会員さんにはより一層のご協力をお願いする。
2. その他必要な関連事業の実施

2011年度参加予定の「国際ブックフェア」

国際ブックフェア名	会期	備考
1. 第37回ブエノスアイレス国際ブックフェア	4.20～5.9	
2. 第24回テヘラン国際ブックフェア	5.3～14	
3. 第17回ソウル国際ブックフェア	6.15～19	事務局派遣
※ 4. 第18回東京国際ブックフェア	7.7～10	
5. 第16回リマ国際ブックフェア	7.20～8.2	
6. 第20回トウルク国際ブックフェア	9.30～10.2	
7. 第63回フランクフルト・ブックフェア	10.12～16	事務局派遣
8. 第56回ベオグラード国際ブックフェア	10. ～	
9. 第36回クウェートブックフェア	10. ～	
10. 第13回国際知的図書展 non/fiction	11.30～12.4	
11. 第22回ドーハ国際ブックフェア (カタール)	11. ～12.	
12. 第20回ニューデリー国際ブックフェア	H24.1. ～	
13. 第17回マスカット・インターナショナル・ブックフェア	H24.2. ～3.	
14. 第22回アブダビ国際ブックフェア	H24.3.20～25	
15. 第30回リヤド国際ブックフェア	H24.3. ～	

[注] ※ 4. 第18回東京国際ブックフェア以外は国際交流基金との共催事業

第52期2011年度(平成23年度)収支予算

自2011年4月1日 至2012年3月31日

(単位:円)

項目	科目	2011年度収支予算	2010年度修正収支予算	増減
前期繰越		11,000,000	8,157,000	2,843,000
1 事業活動収入				
入会金収入		0	0	0
会費収入	会費収入	18,620,000	20,000,000	-1,380,000
	特別会費収入	780,000	840,000	-60,000
	特別賦課会費収入	7,800,000	7,800,000	0
事業収入	フランクフルト・ブックフェア参加収入	16,000,000	16,500,000	-500,000
	ソウル・ブックフェア参加収入	1,200,000		1,200,000
	国際交流基金預託金(立替分)	14,000,000	14,300,000	-300,000
	海外視察団参加事務手数料		450,000	-450,000
補助金等収入	受取利息	2,000	50,000	-48,000
	雑収入	60,000	130,000	-70,000
	その他収入	1,850,000	1,820,000	30,000
当期収入合計		60,312,000	61,890,000	-1,578,000
前期繰越+当期収入合計		71,312,000	70,047,000	1,265,000
2 事業活動支出				
事業費支出	フランクフルト・ブックフェア参加費	14,500,000	16,500,000	-2,000,000
	ソウル・ブックフェア参加費	1,200,000		1,200,000
	国際ブックフェア参加費	2,050,000	4,500,000	-2,450,000
	国際交流基金預託金(立替分)	14,000,000	14,300,000	-300,000
	ODAブックフェア参加負担金		150,000	-150,000
	目録発行費		185,000	-185,000
	会報発行費		215,000	-215,000
	東京国際ブックフェア参加費	450,000	300,000	150,000
	調査費	900,000	370,000	530,000
	渉外費		210,000	-210,000
管理費支出	給与手当	11,110,500	15,850,000	-4,739,500
	福利厚生費	2,400,000	2,796,000	-396,000
	旅費交通費	900,000	900,000	0
	通信運搬費	1,080,000	800,000	280,000
	印刷費	210,000	175,000	35,000
	会議費	220,000	200,000	20,000
	慶弔費	10,000	10,000	0
	保険料	10,000	20,000	-10,000
	消耗品費	180,000	300,000	-120,000
	雑費	360,000	400,000	-40,000
不動産関係	賃借料	1,800,000	1,884,000	-84,000
	水道光熱費	240,000	200,000	40,000
税金関係	租税公課	70,000	70,000	0
	その他支出	2,300,000	0	2,300,000
当期支出合計		53,990,500	60,335,000	-6,344,500
次期繰越額		17,321,500	9,712,000	7,609,500

(注)1 借入金限度額 0円

(注)2 債務負担額 0円